

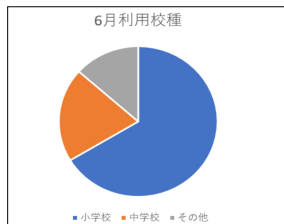
INFO@g.shunan.ed.jp

周南市教育研究センターHP

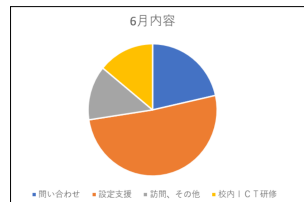


6月活動状況

＜校種別＞ 119件
 小学校79、中学校24、
 その他16



＜内容別＞ 135件
 ○電話等による問い合わせ等 29
 ○設定支援 69
 ○訪問、その他 18
 ○校内ICT研修他 19



知っておきたいICT

＜アカウントの管理＞

学習者用端末、指導者用端末にかかわらず、アカウント、パスワードにより、いつでもどこでもデータにアクセスすることができます。反面、それを知って

6月は、2024年版バーコード名表作成・引き渡しツールを市内40校全校が利用できるように、「Public」→「教育研究センター」フォルダにインストールしました。また、バーコードを利用した引き渡し受付を行われる学校の「設定支援」が多くなりました。

※「Public」内の「教育研究センター」フォルダ、「T-Net」フォルダには、各校独自の作業ファイル等を保存しないでください。

「教育研究センター」フォルダは、バーコード引き渡しマニュアル、地域調べFigJam版やScratchデータ等、このINFOの配信時に添付された資料の保存場所としています。その資料参照にご利用ください。

る他の人は、「なりすます」こともできます。流出に注意してください。当初から、先生、児童生徒によらず、本体のパスワードを変更した場合、その記録は管理職による保管を依頼しています。また、CBTなどでアカウントを忘れた児童生徒対

INFO70号、73号で「地域調べ」のまとめ方として、

①FigJam
 ②Scratch
 ③Googleスライド
 の3つの例を紹介しています。

このたび、②、③のマニュアルを本紙とともに送信しますので、「教育研究センター」フォルダ内の資料をご覧ください。

②Scratchは、ひとつのファイルをみんなで作りあげるということは難しく、個々に作るプログラミングの観点で取り組むには良いでしょう。

協働的な学びという観点では、③Googleスライド、①FigJamが良いでしょう。

著作権と生成AI

ChatGPTやCopilotが身近になりました。

Copilotには、画像を提案する機能も備わっており、「こんな感じの風景」と少し条件を明確にすれば、その画像を提案して

応が必要な場合、個人カードを配付して、それを使います。(当初より、作成様式も提供しています。)

セキュリティを保つ努力を惜しまず、さらに、不正アクセスについても安心せず、使わない時は端末であっても電源を切ってください。

くれます。

その画像をもとに、児童生徒が、作品の応募をしてしまうこともあります。

最近の作品募集には、著作権のリーフレットと一緒に配られたり、応募様式に、生成AIをどの場面で使用したか、引用、参考にした画像の著作権の有無を申告したりするものもあります。

何より、生成AI自体が利用年齢制限を設けているものもあります。

無料であっても、様々なアプリに年齢制限の有無があり、利用前の確認が必要です。

授業や同時配信する場合は、下図に基づいて、

文化庁著作権課

著作物の使用許諾を得なくても使用できます。

しかし、児童生徒は「学校で使っていたからいいだろう」と拡大解釈して、著作物の無許諾使用や年齢制限を確認せずに使用することが考えられます。

SNSを含めて、著作権の有無、無断転載の禁止、生成AIの利用制限について、「夏休みの過ごし方」等に記載し、児童生徒に知らせておく必要があります。

無用な混乱を避けるため、応募票にあらかじめチェックボックスを設け、利用の有無を明示させるものもあります。

授業目的公衆送信補償金制度での変化（開始後）



この制度が開始されることで、利用者は「その他の公衆送信全て」を無許諾・有償で行えるように。



※ただし、ドキュメントやワークブックといった児童生徒等の購入を想定した著作物を、購入せずに複製や公衆送信を行うことなど、著作権者の利益を不当に害する場合には、別途許諾が必要です。

「教育のDXを加速する著作権制度～授業目的公衆送信補償金制度について～」2022年6月

周南市教育委員会
 周南市教育研究センター
 教育情報化推進室